

近世関東における地震史料データベースの構築と1855年安政江戸地震における江戸以外での有感記録
Construction of historical document database for damaging earthquakes in Kanto region
during the early modern period and felt reports of the 1855 Ansei Edo earthquake in the
areas outside Edo City

*村岸 純¹、西山 昭仁¹、矢田 俊文²、榎原 雅治³、石辺 岳男¹、中村 亮一¹、佐竹 健治¹

*Jun Muragishi¹, Akihito Nishiyama¹, Toshifumi Yata², Masaharu Ebara³, Takeo Ishibe¹, Ryoichi Nakamura¹, Kenji Satake¹

1.東京大学地震研究所、2.新潟大学、3.東京大学史料編纂所

1.Earthquake Research Institute, The University of Tokyo., 2.Niigata University,

3.Historiographical Institute, The University of Tokyo

都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクトの一環として、本研究では17世紀以降に関東地方に被害を及ぼした地震を対象とし、既刊地震史料集に所収されている史料に基づいて地震史料データベースを構築している。

近代的な機器観測による記録がない歴史時代の被害地震について、被害分布や地震像などを検討するためには、史料の収集とその記述内容の分析が必要である。地震史料の調査・収集は20世紀初頭から開始されており、これまでに刊行された地震史料集は全35冊（約28,000頁）に及ぶ。しかしながら、これらの既刊地震史料集には、「史料」以外にも様々な種類の「資料」が収められており、自治体史や報告書の叙述からの抜粋記述なども含まれ、玉石混淆の状態にある。そのため、データベース化に際しては歴史学的に信頼性の高い史料のみを選択し、原典に遡って修正や省略部分の補足を行う校訂作業を実施している。なお、本研究で構築しているデータベースは、既存の「古代・中世地震・噴火史料データベース」や「ひずみ集中帯プロジェクト古地震・津波等の史資料データベース」と同様に、史料本文のテキストにはXML言語を使用している。

また本研究では、安政二年十月二日（1855年11月11日）の夜に発生して、江戸市中や南関東一円に甚大な被害を与えた安政江戸地震について、新史料の調査・収集や既存の史料に関する分析を実施した。千葉県域では新たな史料を収集し（村岸・佐竹, 2015, 災害・復興と資料, 6号）、茨城・神奈川県域では収集した史料の再検討を行った（村岸ほか, 2016, 災害・復興と資料, 8号, 印刷中）。さらに、被災地である関東地方からより離れた遠地で記された有感記録についても既刊地震史料集に所収されている史料を用いて検討した。地震発生当日の十月二日夜に遠地で記録された史料を選び出し、その中から「夜四ツ時」や「亥刻」と記されている信頼性の高い日記史料のみを選定した。このようにして厳選された史料にある遠地での有感記事に基づいて、震度を推定した。また、有感記事が記された当時の場所について、他の史料や当時の絵図、日本史における研究成果などに基づいて現在の地名を調査・検討し、その緯度・経度を導き出して遠地での有感記録の分布図を作成した。

付記) 本研究は文部科学省受託研究「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト」の一環として実施された。

キーワード：歴史地震、地震史料データベース、1855年安政江戸地震

Keywords: historical earthquakes, earthquake historical documents database, 1855 Ansei Edo Earthquake